

(今回のお題)

郷土芸能保存組織に学ぶ、世代継承



よく上下のことを言うけど、  
世代継承というのは横の組織が  
うまくいってないとダメなんです。

針谷重威氏

郷土芸能保存会会長

国指定重要無形民俗文化財、鷲宮催馬楽神楽(わしのみやさいばらかぐら)保存会会長。世襲以外に後継者を求め伝承断絶の危機を救った父の遺志を継ぎ、1975年第二代会長に就任。以来、若い世代の取り込み尽力し世代継承の安定化に成功。26年生まれ。会長兼現役神楽役(神楽師)として82歳の今も鷲宮神社祭礼奉納の舞台に立つ。

## ◆ 周囲の理解を感じれば、若者たちも安心してのめり込める

毎週水曜、地元埼玉県、鷲宮中学校の郷土芸能部で指導するようになって28年。保存会の神楽役11人のうち40歳以下の若手5人は皆その卒業生です。他にも人が足りなければいつでも手伝うと言ってくれる卒業生がたくさんいて後継者には恵まれているほうです。若者がそこまで育ってくれるのは、1つは若いうちに触れたからでしょうが、もう1つは周囲に神楽への理解があるからなんです。「そんな時間があったら勉強しなさい」というのが普通の親でしょう？でも鷲宮では、多くの人が彼らの発表を楽しみにし「中学生がここまで！」と称えてくれる。先生方も我が校の誇りだと自慢してくれますし、一般の大人たちにも町の伝承教室で神楽に挑戦している人がたくさんいる。親が打ち込んでいる姿を見れば、子どもも自然に神楽に誇りを感じるようになる。そんな町ぐるみの雰囲気の後継者を育てているのだと思います。

## ◆ 誇りが支えだからこそ誇りが持てるよう仕向けていく大切さ

世襲制のその昔は、神楽の家に長男として生まれた「宿命」と「禄」が世代継承を支えてきた。でも世襲が途絶えた今は、「誇りに燃える」ということ以外ないのです。だから誇りが持てるように仕向けていく人も重要ですね。例えば町長をはじめ議員の方の理解でできた『神楽の里鷲宮』という町の愛称、保存会への経済的支援。あるいは鷲宮神社が保存会会長の私を神社総代に引き立ててくれたのも、昔、神社組織の中で格下に見られていた神楽役の誇りを奮い立たせてくれるありがたい気遣いでした。やはりね、周りといい関係を持つというのがまず大切なんです。世代継承には。大体、組織というのは横と縦でできているんですから、よく上下ばかりに気を遣うけど、本当は横がうまくいってないとダメなんです。